

～まちづくり活動体験講座～

日時 平成27年10月25日 9:30～12:00

場所 里山の家（千種区東明町7-25-1）

■ 講座概要

環境分野のまちづくりに着目し、東部丘陵の緑地保全をされているNPO法人なごや東山の森づくりの会の協力のもと、まちづくり活動を体験しながら取組みを学ぶ講座を開催し、4名が受講されました。

■ 講師紹介



NPO法人なごや東山の森づくりの会

平成16年に発足。「なごや東山の森」は、市内の東部丘陵にある東山公園と、平和公園の南北に樹林が連なる森です。市街地に残された森を、市民共有の貴重な財産として、市民・企業・行政の協働により守り育て、次世代に受け継いでいこうと活動しています。平成27年4月にはNPO法人の認証を得られました。

■ ガイダンス

里山の家にて、会の代表である滝川さんより、団体の活動概要についてお話がありました。活動場所となっている「なごや東山の森」は、名古屋市の東部丘陵にある東山公園と、多くの墓所が集まる平和公園を合わせた南北に樹林が大きく連なる森です。なごや東山の森づくりの会は、都市化の進展とともに徐々に荒廃してきた森を市民・NPO・企業・行政との協働により、草花や樹木などの森の保全や昆虫や鳥などの生物の調査、森を活かした自然体験を11の班で分担し活動を行っています。

平成15年3月には、名古屋市内の公園・緑地において自然環境の保全や再生にとり組む市民活動団体と名古屋市が協力し設立した「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」に加盟されています。また平成17年には名古屋市「緑のまちづくり条例」に基づく「緑のパートナー」として協働による緑のまちづくり活動を行う団体として協定を結び、森づくり活動を進めています。

会の具体的な取り組みについては会が作成されたパンフレットやマップ、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会と名古屋市により作成された「なごやの森づくりガイドブック」をもとに解説いただきました。



■ エクスカーション、森づくり体験

受講生は会より借りたヘルメットやノコギリなどの道具を装備し、平和公園南部地区の「くらしの森」にて、森の保全に関する具体的な取組みについて解説を交えながら体験しました。

① 雑木林の保全

講師より雑木林の中に入り、森の保全について説明がありました。

地表に日光が差し込まず手入れがされていない森では、落ち葉が地表で腐食されずに残ります。雨水は地面に浸透する前に落ち葉によりカバーされ地表を流れ、それが地滑りなどの災害につながってしまうそうです。そのため森にとって良くない樹木を間伐し、必要な樹木を育てていくとのことで、樹木が生い茂り良い森に見えても、実は手入れが必要ということを学びました。説明の後、樹木の間伐方法を見学し、切った樹木の年輪の見方などの解説がありました。



② 竹林の整備

竹は成長が早く地下茎が地中に長く伸びるため、手入れをしないとすぐに生育範囲が拡大してしまうそうです。竹により地面への日光が遮られるため、樹高の低い樹種は育たない、他の樹木を取囲んで枯らしてしまう、樹木に比べて多くの雨水を吸収するため、雨水が地中に浸透しないとのことでした。整備の流れは、根元から竹を切り、切った竹葉を落とし、運びやすい長さに切り仮置き場へ運ぶというものでした。講師から説明があった後、受講生が実際に作業をし、竹林整備を体験しました。竹は腐食するのに 20 年近くかかり、細かいチップにする方法もあるが機械が高価なため処分に困っているとのことでした。竹を倒す方向に気を付け、声を掛け合うことで安全に怪我せず活動が続けていることは、実際に作業を体験したことで実感出来ました。



■ 振り返り

体験を終えて受講生からは、実際に活動を経験してよい体験となったとの感想があり、講師から今後の課題として間伐された樹木や竹、炭焼窯の活用について話がありました。講座終了後の昼食を食べながらの交流会も様々な意見交換がされました。

